

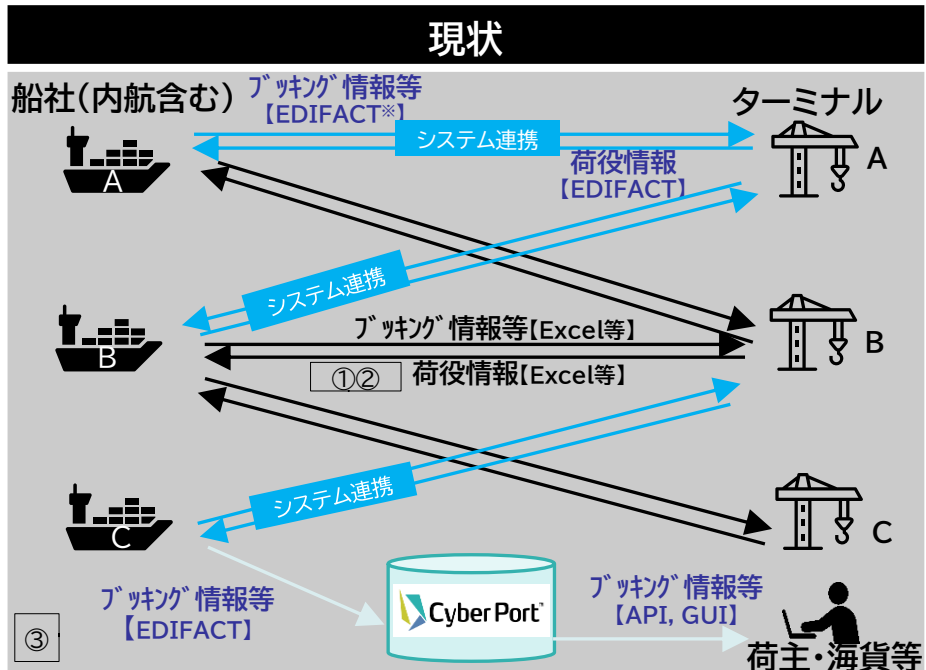
サイバーポート(港湾物流)に新たに追加予定の機能について

2025年9月19日

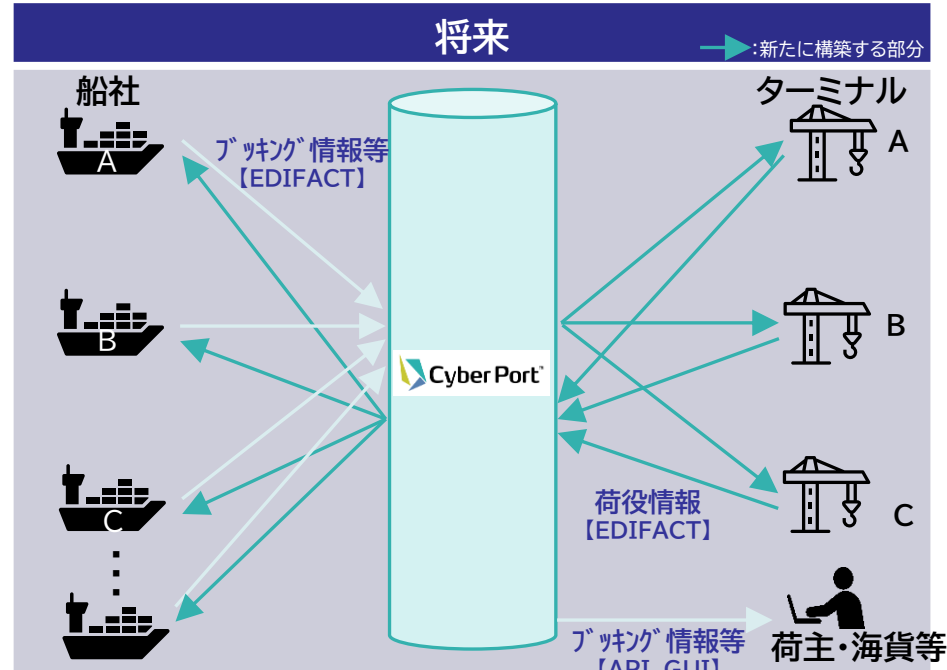
国土交通省 港湾局
参事官(技術監理・情報化)室

①船社・ターミナル連携機能

- 日本の港湾では、船社・ターミナル間の荷役情報やブッキング情報等の情報連携において、非効率な業務を強いられている場合もある。システム連携に際しては、各社で異なる仕様を都度調整する必要があることが課題。
- サイバーポート(港湾物流)を介して船社・ターミナル間の情報連携を行うことで、全体最適化を早期に実現する。



- 現状の課題**
- ① 地方の港を中心に、船社-ターミナル間の連携が不十分で、最新性、効率性に課題。(例: 船社から送られてきたブッキング情報をターミナルで手入力。ターミナルから送られてきた荷役情報を船社で手入力。)
 - ② 船社-ターミナル間でシステム連携する際、各社で仕様が異なり都度調整が必要。(例: 船社BがターミナルB, Cとシステム連携する際にはそれぞれと調整が必要。)
 - ③ ブッキング情報等の上流情報は、CPの導入促進の観点で重要であり、CPと連携する船社情報の拡充が必要だが、船社側の直接的なメリットが限定的なため進んでいない。

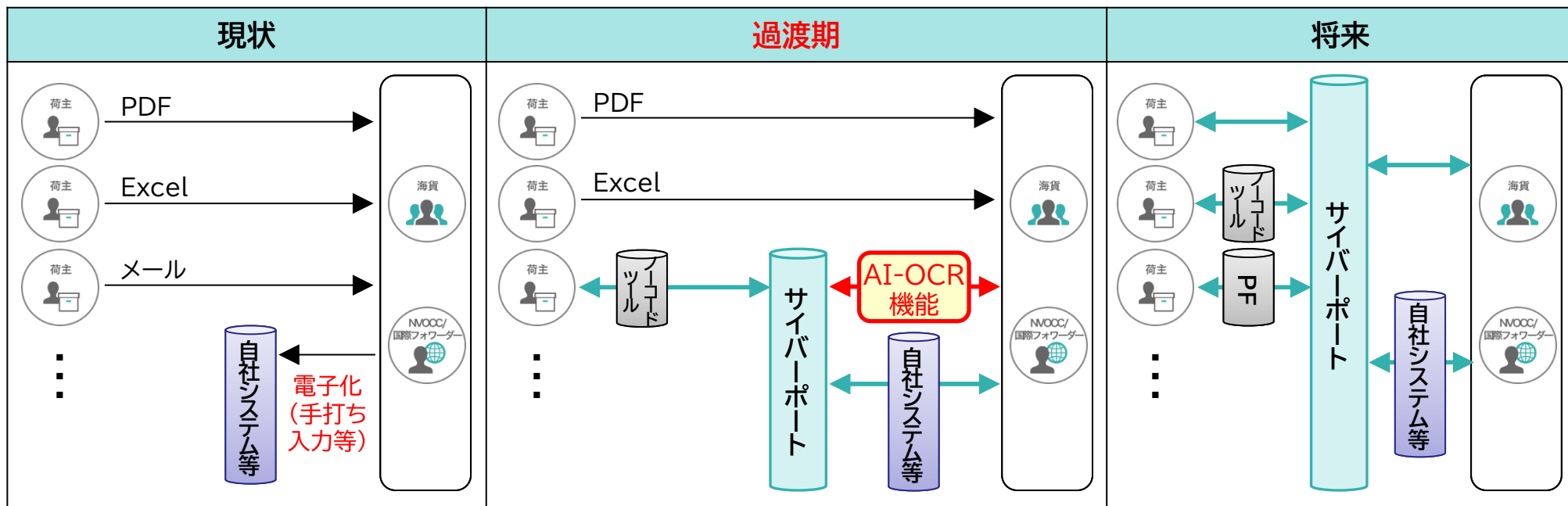


- 課題改善の方向性**
- ① CPの定めた標準仕様に従い、CPを介して船社及びターミナルが荷役情報とブッキング情報等を相互に連携する仕組みを構築することで連携を円滑化。(最新性○、効率性○)
 - ② サイバーポートに連携すればよいいため個別調整は不要。(例: 船社BがターミナルB, Cとシステム連携する際にはCPに連携すればOK。)
 - ③ 船社への直接的なメリットを提供することで船社情報拡充を推進。

※EDI/FACT: 国連が EDI(電子データ交換)の国際標準として策定した電子文書の標準交換フォーマット(Electronic Data Interchange for Administration, Commerce and Transport)
 ブッキング情報: 輸出における船腹予約情報。荷役情報: コンテナのコンテナヤードゲートIN・OUT、積卸に関する情報

②AI-OCR機能

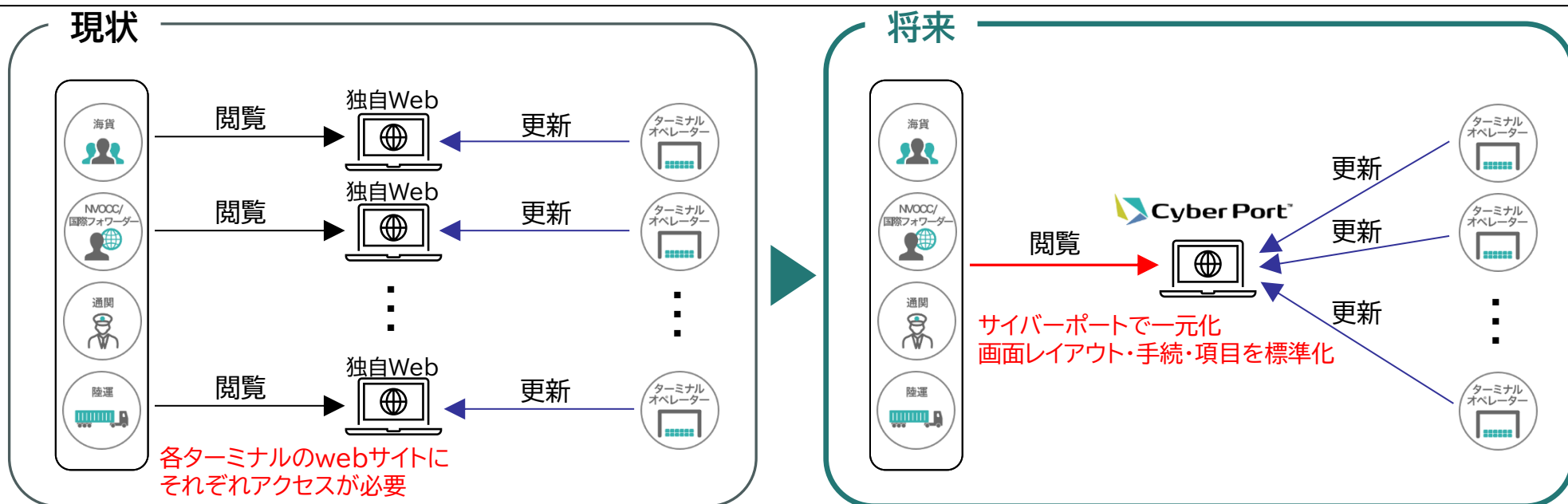
- 荷主から海貨・FWDへの情報連携は、現状のPDF等のアナログな方式から、将来的にサイバーポート経由にすることで、海貨・FWDは上流情報を手打ち入力することなく後続業務に活用可能。
- 一方、過渡期には、全ての荷主の情報が連携されることは難しいため、従来通りPDF等で入手した情報を電子化する作業を効率化するため、AI-OCR機能を2025年度に実装予定。



- ✓ **2025年度に「I/V」を対象に機能リリース**予定。対象帳票の追加を検討中。
- ✓ 生成AIを活用した「AI-OCR」なので、**帳票定義等の事前設定は不要**。
- ✓ 有料化後も当面の間月額6,600円の**定額料金内で利用可能**とする予定。

③ターミナル情報発信機能

- 各ターミナルが運用している独自Webサイトをサイバーポートで一元化する機能をリリース予定。
これにより、画面レイアウト・手続・項目を標準化可能。各ターミナルのWebサイトにそれぞれアクセスする手間も省ける。



分類	情報発信・手続の項目	方針
① お知らせ	ゲートオープン情報、構内作業予定、お知らせ 等	2025年度リリース予定
② 本船動静	本船動静 等	
③ コンテナ情報照会	ゲートIN/OUT、輸入コンテナの搬出可否、輸出コンテナ搬入先案内、輸出入コンテナ情報案内 等	2026年度リリース予定
④ コンテナ搬出入手続	コンテナの搬出入依頼、個別・特殊コンテナ受付前搬出依頼、特殊コンテナ明細登録 等	